

野沢温泉ではあけび蔓（時々 chocolate vine や five-leaf akebia と呼ばれるもの）で作った伝統工芸品を見逃すことはできません。特に有名なのが、温泉卵をゆでるのに使われる小さな編み籠や、地元の有名な民俗玩具の「鳩車」という、村中のお土産店で売られている鳩の形をした小さな乗り物です。

あけび蔓は春から秋にかけて近くの標高 500～800 メートルの山岳地域の奥信濃に育ちます。10 月から 11 月にわずかに残っている地元の職人が山に分け入り枝 1 本ずつ手作業で蔓を収穫します。その後、約 20 分間町の温泉のお湯に浸して、蔓を柔らかく編みやすくします。

この古典的な手工芸は江戸時代（1603～1868 年）に遡ります。当時、柔軟な蔓は背中に背負うカゴや、花カゴや日常的に使う製品にぴったりであることがわかったのです。

三久工芸では、多彩なあけび蔓製品を購入できますし、ワークショップに参加して自分だけのお土産品を作ることできます。ここで異なった 2 種類のあけび蔓製品があることを発見するかもしれません。赤い色の品物はまだ外皮がついたままで、それに対して薄茶色のものは外皮を剥いてから編んだもので、手触りがより滑らかなのが自慢です。